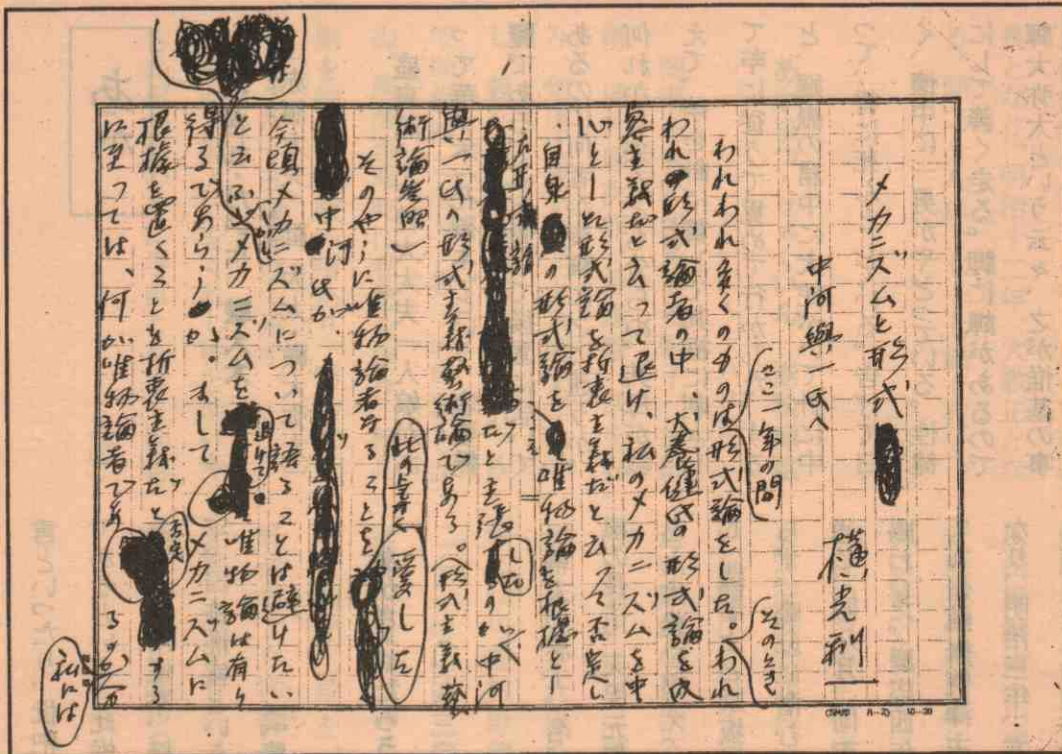


宇佐市民図書館 2002.07

郷土スペース月報

〒879-0453 大分県宇佐市上田1017-1 TEL.0978-33-4600 FAX.0978-33-4679
<http://www.usa-public-library.jp/>



目次

- ◆ 今月の表紙・横光利一原稿「メカニズムと形式」(二枚目)
- ◆ 「メカニズムと形式」(部分) / 横光利一
- ◆ 龍膽・小野精一編「大分県人名辞典」本文編(2)
- ◆ 新着郷土資料目録・平成十四(二〇〇二)年【6月】

4 2 1 1

今月の表紙 昭和4年頃の未定稿。4枚完。横光家旧蔵資料。宇佐市所蔵(三和文庫)。『定本横光利一全集』第16巻(河出書房新社)の「雑纂=評論・随筆」の部に全文収録。

メカニズムと形式 (部分)

横光利一

われわれ多くのものはここ一年の間形式論をした。そのときわれわれの形式論者の中、犬養健氏の形式論を内容主義だと云って退け、私のメカニズムを中心とした形式論を折衷主義だと云って否定し、自身の形式論をこそ唯物論を根拠とした形式論だと主張したのが中河与一氏の形式主義芸術論である。(形式主義芸術論参照)

そのやうに唯物論者なることを此の上もなく愛した中河氏が今頃メカニズムについて語ることは避けたいと云ふ。しかし、メカニズムを退けて唯物論は有り得るであらうか。まして、メカニズムに根拠を置くことを折衷主義だと否定するに至つては、何が唯物論者であるのか私には分……

龍膽・小野精一編 大分県人名辞典 本文編(2)

遺族から宇佐市に寄託された自筆原稿より、本文を順次紹介しています。

収録人名一覧は、No.7(2000.10)～No.14(2002.5)に記載しました。

あか

あかぎれ・だいた 鞍太太

(赤鷹太夫・疋 太夫・鞍太太)

盛衰記に大神太夫一人娘があつて華ノ本〔花御本〕という。容姿艶麗である。之を愛して後園に居いてあるのに何者か夜竊に之に通うか。何れから来るとも分らぬ。其母が教えて、芋を針に貫して其裾に刺さして芋に従うて覚えて行かした。すると、姫嶽の窟中に大蛇がいて針に中つて、将に死んとしている。告げて曰く、懐中に一男がやどつている。性健にして善く走る。脚に輝があるので輝大弥太という云々、之が惟基の事である。実は姫嶽の神威を仮り、大和大神氏の故事を混したものである。其父大太夫慶幾とは堀川大納言

言といつたり、枇杷左大臣藤原伊周に補せられ、大分区裁判所詰を命であるという。此惟基に五人の子があり、阿南惟季、樋田惟定、大野基平、臼杵惟盛という云々。

(『豊後国志に詳出])

教師となり、同三十五年五月、七十歳を以て歿した。

あかさやたろう 赤座弥太郎

(一八三〇～一九〇二)

幕末の志士。名正直。号再生。国風の長子。天保元年生る。小河一敏らと大義を唱え、文久二年、脱藩し、薩藩士と京坂に義拳を謀つて成らず。薩邸に潜む。然し、事天朝に通じ、同八月、同志と共に歎感状を賜わった。慶応四年一月、官命を以て九州鎮撫使澤主水正の付添役となり、明治三年、文武修道館知事兼塾頭となり、同年十二月、大楽源太郎隠匿の年に連座し禁錮二年に及ぶ。同九年五月、大分県十五等出仕

あかし・しゅうしつ 明石秋室

(一七九三～一八六五)

名肅。宇雨若。通称僊次郎、又大助。号秋室。別に桂山山樵。杵築藩士豊田八蔵次男。寛政五年生。三浦黄鶴に学び、画を鏞木雲丹に学び、雲居と号す。佐伯藩士明石某迎えて嗣とさんんとして其意を通ず。秋室曰く佐伯ハ僻隅の小藩、然し奇書に富む。予をして史書監督に任ずるなり。応講しよう藩主毛利高誠之れが冀望を容れ因て佐伯に至り

明石氏を嗣ぎ、書物奉行となる。猶郡奉行を兼ね、公務の外、俗事を顧みなかった。其作る処の書画詩文悉く之を庭前に焼く。且つ曰く人間の見るべきものでない天帝に上ると、人の請うも敢て許さぬといつていた。慶応元年、七十三歳で歿した。

(偉人伝)

あかまつこうえい 赤松光映

(一八一九～一八九五)

叡山座主。東国東郡中野村の人。財前楨策の子。幼名松太郎。竹林坊、曇覚、棘樹、一如庵の号がある。年十二、叡山に入り居る数年、二十歳、再(び)叡山に入り修業。弘化元年、山中の本信院主となる。以来、山内転進移住、安政三年、大僧都となり、冷泉中納言為理の猶子となる。文久三年、大和多武峯竹林坊に住す。同年十月、孝明天皇に拝謁、紫衣を賜る。明治元年、江戸東

叡山に入り、左幕に力む。彰義隊の変により法親王を奉じて相戦う。明治三年、権大僧正に進み、二百三十三代延暦寺座主となり、天台宗為長となり、明治十二年、大教正となる。同二十八年、七十七歳で歿す。

(大塚)

あかまつりよくいん 赤松緑陰

(一八一〇～一八九四)

岡藩士赤松則嘉の養嗣子。諱則得。通称琢次郎。号緑陰。武を好み、剣道に達す。二十歳歳文学に志し、義もなく学館句読師となり、次て助教授となり、世子の侍講をかぬ。廃藩後殿町に私塾を開き、傍ら七年、八十五歳を以て歿す。

(大塚)

あかみねいわぞう 赤峯岩三

(大塚)

大野郡野津村の人。仮屋津井堰成功者。父岩右衛門(同村庄屋)、広田勘解由(川登村庄屋)の二人、安政五年、開墾に着手したが、不成功に終つた。岩三之が再起を計り、村民の紛議を顧みず、明治十七年、之が完成を見た。開田二十六町。米の収穫は十倍を得るに至つた。此外道路開修の功亦大なるものあり。明治十五年には三重町より臼杵町に通ずる延長八里を竣工し、同十八年には川登村野津市間一里を、同二十一年には三重町より内山まで延長一里を、同二十七年には野津市犬飼間二里を、同二十八年には野津市より同郷に達する延長一里を悉く竣工した。明治四十年勅定の藍綬褒章を賜わった。

あきおか・ゆうてつ 秋岡友哲

(一八一六～一八七八)

樋田村の人。通称友哲。字存終。諱謙。号九峯。帆門に学び、天保八年、出て備前難波立愿に医を学び、尋いて華岡準平に就き医を修む。弘化二年、延岡藩に聘せられ豊後地内を支配せしむ。安政三年、岡藩より医業精励を以て賞せられた。明治九年、県立医学校に勤め、十一年、衛生取締となり、同年六十三歳で歿す。詩及画を善くす。一男嗣

(毛利侯碑文)

バックナンバーは
中央カウンター(そくだん)で
さしあげます。

新着郷土資料目録 平成14(2002)年【6月】

書名／人名／出版社／出版年(月)／請求記号／(備考)

桂畔 平成13年度 155号-166号／豊後高田市立図書館／2002.5/A0107／(寄贈)

森井書店古書目録 近代自筆本特集 1998 No.20／森井書店／1998.6/A080 Y98／(寄贈)

あいうえおいで! 宇佐百景／宇佐両院観光協議会／2002.3/A214ウ／(寄贈)

静かなる宇佐 宇佐エコミュージアム構想／宇佐エコミュージアム協議会／2002.6/A214ウ／(寄贈)

安心院縄文 第13集／安心院縄文会／2002.4/A215ア／(寄贈)

大宇佐郡史論／小野精一／宇佐市役所／1972/A215オ／(保管転換)

鬼才福沢桃介の生涯／浅利佳一郎／日本放送出版協会／2000/A2897／(寄贈)

散策図鑑 湯布院／おおいたインフォメーションハウス／2002.3/A291.9オ／(購入)

平成14年3月 第一回宇佐市議会定例会会議録／宇佐市議会／2002.3/A314.5ウ／(寄贈)

平成14年4月 第二回宇佐市議会定例会会議録／宇佐市議会／2002.4/A314.5ウ／(寄贈)

地方からの変革／平松守彦／角川書店／2002/A318.2ヒ／(購入)

大分県中学校史の一断面／吉田豊治／みもご書房／1999.1/A376.3ヨ／(寄贈・複本)

しらべる戦争遺跡の事典／十菱駿武／柏書房／2002/A390シ／(寄贈)

大分、別府のラーメン／おおいたインフォメーションハウス／2002.5/A673オ／(購入)

郷愁のローカル鉄道国東線 写真集／清原芳治／大分合同新聞社／2002.5/A686キ／(購入)

牙 第27巻 7-12号／2000/A905キ／(合本)

十年史／江淵溪亭／俳人協会大分県支部／2002.5/A911.3ハ／(寄贈)

豊後の王妃イザベル／小石房子／作品社／1995.3/A913.6コ／(寄贈)

紋章／横光利一／改造社／1934.9/A913 Y34／(寄贈)

旅愁 第一篇(改造社名作選)／横光利一／改造社／1946/A913 Y46／(寄贈・複本)

旅愁 第二篇(改造社名作選)／横光利一／改造社／1946/A913 Y46／(寄贈・複本)

旅愁 第三篇(改造社名作選)／横光利一／改造社／1946/A913 Y46／(寄贈・複本)

旅愁 第四篇(改造社名作選)／横光利一／改造社／1946/A913 Y46／(寄贈・複本)

私のビルマ負走録 画文集／渡辺勝三郎／葦書房／1978.8/A9167／(寄贈)